

# 軽井沢で

芥川龍之介

青空文庫



黒馬に風景が映つてゐる。

×

朝のパンを石竹の花と一しよに食はう。

×

この一群の天使たちは蓄音機のレコオドを翼にしてゐる。

×

町はづれに栗の木が一本。その下にインクがこぼれてゐる。

×

青い山をひつ搔いて見給へ。石罅が幾つもころげ出すだらう。

×

英字新聞には黄<sup>かぼちや</sup>瓜を包め。

×

誰かあのホテルに蜂蜜を塗つてゐる。

×

M夫人——舌の上に蝶<sup>てふ</sup>が眠つてゐる。

×

Fさん——額<sup>ひたひ</sup>の毛が乞食<sup>こじき</sup>をしてゐる。

×

Oさん——あの口髭<sup>くちひげ</sup>は駝鳥<sup>だてう</sup>の羽根だらう。

×

詩人S・Mの言葉——芒<sup>すすき</sup>の穂は毛皮だね。

× 或牧師の顔——<sup>へそ</sup>臍！ ×

× レエスやナプキンの中へずり落ちる道。 ×

× 碓氷<sup>うすひ</sup>山上の月、——月にもかすかに苔<sup>こけ</sup>が生えてゐる。 ×

× H老夫人の死、——霧は仏蘭西<sup>フランス</sup>の幽霊に似てゐる。 ×

× 馬蠅<sup>うまばへ</sup>は水星にも群<sup>むら</sup>つて行つた。 ×

ハムモツクを額に感じるうるささ。

×

かみなりこせう  
雷は胡椒よりも辛い。

×

「巨<sup>きよじん</sup>人の椅子<sup>いす</sup>」と云う岩のある山、  
——瞬<sup>またた</sup>かない顔が一つ見え  
る。

×

あの家は桃色の齒齶<sup>はぐき</sup>をしてゐる。

×

羊の肉には羊齒<sup>しだ</sup>の葉を添へ給へ。

×

さやうなら。

手風琴<sup>てふうきん</sup>

の町、

さようなら、

僕の抒情詩<sup>ぢよじやうし</sup>時代。

(大正十四年稿)



# 青空文庫情報

底本：「芥川龍之介全集第四卷」筑摩書房

1971（昭和46）年6月5日初版第1刷発行

1971（昭和46）年10月5日初版第5刷発行

入力校正・j.uitiyama

1999年2月15日公開

2003年10月7日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>)

で作られました。入力、校正、制作にあたった

のは、ボランティアの皆さんです。

# 軽井沢で 芥川龍之介

2020年 7月13日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>